

気象科学データの検閲と戦う科学者の告訴状の全文

ケムトレールの闘士 Dane Wigington (GeoengineeringWatch) を葬り去ろう
とするフェイスブック検閲

GeoengineerWatch.org

Email: admin@geoengineeringwatch.org

Date: February 14th, 2022

Translated by: www.dcsociety.org

Shasta、カルフォルニア——個人としての科学者が、一般大衆に対して、科学的データを検閲する権利があるだろうか？ もしそのデータが、人間の健康にも、地球のエコ・システムを長く保つためにも、壊滅的となるような意味合いを持つとしたらどうか？ もしその結論が、公的な物語とは合意しないが、科学的な検証には支持され、かつての連合政府や州の科学者、高位の軍関係者、物理学者、パイロット、産業インサイダー、その他、この問題に関してキーとなる、洞察力ある専門家たちからは、記録された証言を得ていたら、どうなのか？

Geoengineeringwatch.org の指導的研究者であるデイン・ウィギントンによって、カリフォルニア州シャスタ郡の最高裁判所に提出された、最近の訴状は、国際的な意味合いをもつ、これらの質問に答えているであろう。

デイン・ウィギントンは、Cal-Tech とコーネル大学の教授、Dr. Douglas MacMartin (別命 Douglas MacMyncowski) に対して、損害賠償を求めており、マクマーティンの、ある「個人的ファクト・チェック」が、フェイスブックの検閲の元になったことを訴えるものである。そこには Geoengineering Watch 2021 のドキュメンタリー・フィルム、*The Dimming* とそれに続く、フェイスブックに載せられた、他のすべての関連するデータが含まれている。

「マクマーティン博士の行動は、我々の長年の研究と刊行の努力に対し、非常に現実的な、証明可能な損害を与えただけではない」と、ウィギントンは、彼の隔週のナショナル・ラジオ放送 *Global Alert News* で言明した。「もっと重要なことは、それは合法的な科学的討論を窒息させ、これほどの緊急な重要な問題について、方法論的に収集されたデータからの結果を抑圧しようとする、彼の試みが、この重大な情報への一般人のアクセスを、大幅に奪ってしまっただけのことだ。彼らは、現行の地球的な気象介入作戦について、知る権利があるのだ。」

ウィギントンのフィルム *The Dimming* に記録されているように、GW フィルムは、NOAA（アメリカ海洋大気庁）の飛行実験室で、高度大気圏の微粒子テストを行っている。空気のサンプルが、大きなジェット航空機によって噴出されている、可視的なトレール（ケムトレール）から集められ、それが、世界的に有名なアメリカの、ある実験室の電子顕微鏡を使って、科学者たちによって分析された。科学者たちは、気象操作からの主要な元素を同定することができたが、これは気象操作が提案されたとき、また天候変更の特許申請として名付けられたもので、アルミニウムやバリウムなどの、ナノ粒子だった。

「このドキュメンタリーのタイトル (dimming) は、気象科学共同体の明示しているジオエンジニアリングの対象、すなわち太陽放射操作活動 (作戦) に関係したもので、太陽から入ってくる熱放射のあるパーセンテージを、反射させるか 'dim' (薄める) するもので、途方もなく危険な、想像できないほどに破壊的な試みとして、地球温暖化の進行を緩めようとする試みだった」と、ウィギントンは報告している。

この訴状によれば、2021 年初めに公開されて数週間後に、*The Dimming* ドキュメンタリーは、マクマーティンの単独の主張を理由として、フェイスブックによって「虚偽の報告」として取消された。訴状は、マクマーティンは、彼の非難を証拠づけるいかなるデータも、ウィギントンによって提出されたデータへの反論も、提出しておらず、これでは、誰でも一人の科学者が、大衆に対して、自分が間違いと感ずるデータを検閲し、その主張への反対意見だけを提出しても、許されることになる。

データと発見を絶対とする、かつての規律を無視して、科学のある領域は政治化され、個人的なものになりつつある。マクマーティンとの対決による応酬が、訴状には詳しく記録され、2018 年の WBAI ラジオ番組に、マクマーティンとウィギントンの対談が載せられている：「(マクマーティンの) 私に対する態度は、このやり取りによって非常に明らかになった。ダグラス・マクマーティン博士を、偏見のないファクト・チェッカーと考えては、全く理屈が通らないだろう」と、ウィギントンは言う。

「フェイスブックの *The Dimming* の検閲の前にも後にも、どうやら、この問題について彼に狙われたのは、私一人のようだ」と彼は、彼の視聴者と話し合った。「おそらくこれは、彼が Geoengineering 研究に対して与えられた、あの 100 万ドルの助成金と関係があるだろう。コーネルと Cal-Tech での仕事の一部として、マクマーティンの研究には、地球気象操作の領域があり、彼は最近、日光の偏向が気象変化の影響を小さくするという研究で、100 万ドルの助成金を受けた。

マクマーティンの助成金は、気象科学共同体の主張する、地球温暖化を相殺する可能性の研究という、大きなプロジェクトの一つである。しかしウィギントンは、それは単に提唱されたものではないと言う。「気象操作のプロジェクトは、資金を与えられ、何十年も前から、世界的に研究され実用化されてきた。我々は、特許、連邦政府の予算、軍高官の証言などを記録文書化しており、したがって、これらのプログラムが、研究の最初のあり方であるかのように言うことは、全く証拠に反するのである」と、ウィギントンは報告する。

科学的データに関して、異なった結論が出てくるなら、検閲でなく、科学的方法を用いてこそ明瞭さが見えてきて、事実とフィクションが区別されるのでなければならない。そのレジュメのいかんに関らず、一人の人物が、一般大衆にとって何が信用できるか、また関心をもつに値するかを、決めてよいものだろうか？

科学者や権威者に対する信頼が、かつてないほど低下し、「科学」という言葉が、一般に知られる物語に反対する者の主張を、黙らせるために使われるとしたら、この訴訟は、その最初の裁判の世界とはかけ離れた、意味合いと影響力をもつことになるかもしれない。

この意を尽くした法的告訴状は、カリフォルニア州シャスタ郡の最高裁判所に提出された。マクマーティンとその弁護団は、それ以来、その法的行動を、シャスタ郡から、米国地方裁判所のカリフォルニア東部地区（サクラメント）に移した。

###

GeoengineeringWatch.org は非政治的気象操作研究ソース、ジオエンジニアリングの問題では世界最大で、最も訪問を受け、これまでに約4千万の訪問者がいる。

[訳者 Greatchain 注]

この翻訳を試みたのは、訴訟の内容もさることながら、そこから Dane Wigington 博士の何十年にもわたる献身的活動を垣間見るためである。この真剣に世界と人類の滅亡の可能性を訴え、警告し続けている学者を、このように簡単に不正に、卑怯なやり方で、葬り去ろうとする試みを許すことはできない。

ここから、この我々の生きているこの世界の、歪みに歪んだありさまが見えてくる。我々の大多数の間では、数十年も前から、我々の頭の上を飛び続けている飛行機雲に似た物の正体を、指摘してはならない暗黙の約束ができています。恐るべきことで

ある。つまり疑問を抱いてはならない。これは、その徹底的な不人気から考えて、あり得ない、バイデンと民主党の当選に、疑問を抱いてはならないことによく似ている。それは誰もがわかっていながら、(安全のため) 誰も口にする者がいない。

その恐ろしさは、最近、ユーチューブやフェイスブックやツイッターが、ある一定の話題を完全に排除し、検閲の対象にしたことからわかる。(その代わりに、安倍元総理暗殺の真犯人を問わず、そこから派生した別の話題を繰り返している。)

しかしこの世界には、危険を顧みず、世界と人類を救おうとする、ごく少数の英雄がいる。デイン・ウィギントンは明らかにその一人である。Infowars の Alex Jones も代表的な一人である。Discovery Institute の Intelligent Design 普及派の科学者も、世界の巨悪を倒す執念において、英雄というべきである。その他にも、英雄あるいは救世主と呼ぶべき、個人や団体は少なくない。しかし私は巨大な名として、ウラジミール・プーチンを挙げる。彼は悪と無縁ではない。しかしそれは「必要悪」であって、グローバル陰謀団の、神を敵とする悪とは全く反対のものである。